27

山の動く日来たる、
すべて眠りし女、
今ぞ目覚めて動くなる

詩　意

晶子が長い間待ち望んでいた多くの女性たちの目覚めを火山にたとえている。今まで眠っていた女性たちが今ようやく動き出しました。きっと女性たちは自立し動き始めるでしょう。

掲載歌集　『夏より秋へ』大正3（1914）年1月
初　出　「青鞜」創刊号　明治44（1911）年9月
「そぞろごと」の題で発表（晶子33歳）

・所 在 地
御池台地域会館敷地内
（南区御池台３丁１－37）
泉北高速鉄道
「栂・美木多駅」からバス利用
南海バス「御池台センター」
下車すぐ
・建　　立
令和４年４月３日
御池台校区連合自治会
・書　　平見　和美
・連 絡 先　御池台地域会館
072-293-7840

与謝野晶子の詩碑が御池台校区連合自治会によって、地域会館の敷地内に建立された。永年、女性が代表を務めるこの地域・御池台を象徴する歌が選ばれた。

この詩碑を建立するきっかけとなったのは、堺市公園緑地部が開発したさかいブランド桜「与謝野晶子」を地域会館の敷地内に植樹したことだった。さらに、「御池台を文化の馨るまちに」との思いから、「住まいのまちなみ賞」の支援金や住民の寄附により、この桜の前に、詩碑を建立するに至ったものである。

除幕式では、大阪府立泉陽高等学校の生徒に、「晶子の詩歌」を朗読してもらい、堺市立御池台小学校の児童が書いた詩歌を掲示した。

与謝野晶子のこの詩の思いが、未来の子どもたちにもつながっていくことを願います。

※詩碑の後ろに植えられているさかいブランド桜「与謝野晶子」は、早咲きの桜で、ソメイヨシノより早く咲く。